



## 共同研究

### 1. 基幹研究

#### 【王朝文学の流布と継承】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：伊藤鉄也、江戸英雄、落合博志、寺島恒世、齋藤真麻理、藤島綾、トリーニ・アルド（当館外国人研究員（客員教授））、加藤昌嘉（法政大学准教授）、浅田徹（お茶の水女子大学大学院准教授）、安達敬子（京都府立大学教授）、上野洋三（大阪女子大学名誉教授）、小川陽子（松江工業高等専門学校助教）、勝俣隆（長崎大学教授）、神作研一（金城学院大学教授）、日下幸男（龍谷大学教授）、久保木秀夫（鶴見大学講師）、坂巻理恵子（大正大学非常勤講師）、妹尾好信（広島大学大学院教授）、田野慎二（広島国際大学准教授）、田淵句美子（早稲田大学教授）、鶴崎裕雄（帝塚山学院大学名誉教授）、西本寮子（県立広島大学教授）、原豊二（米子工業高等専門学校准教授）、福田景道（島根大学教授）、藤田洋治（東京成徳短期大学教授）、古瀬雅義（安田女子大学准教授）、松原一義（川村学園女子大学教授）、安原真琴（立教大学非常勤講師）、山本登朗（関西大学教授）、森田直美（当館機関研究員）

プロジェクト補助者：野本瑠美（当館リサーチアシスタント）

#### （1）概要

本年度が5年計画の最終年度であり、これまで研究員が個別に学会誌や研究書に発表した研究業績を一冊の報告書として集成した。また、第2回研究会においてこれまでの活動の総括と今後の共同研究の有り方について討議した。資料調査は各自が研究テーマに関連する資料についての調査を行った。

#### （2）活動記録

[研究会]

##### 第1回研究会

- ・日程 5月28日（金）
- ・場所 国文学研究資料館 第1会議室
- 森田直美：「近世中・後期における平安朝物語の図説化—装束関連の書を中心に—」
- 福田景道：「『弥世継』と『月のゆくへ』—歴史物語の継承と再生」

##### 第2回研究会

- ・日程 12月24日（金）
- ・場所 国文学研究資料館 大会議室
- 小林健二：「能《源氏供養》制作の背景」

[資料調査]

小林健二：12月22日～23日 石山寺

寺島恒世：8月26日～29日 佐渡博物館・真野御陵・黒木御所・正法寺・国分寺跡・新潟県立文書館

安達敬子：12月23日～25日 国文学研究資料館  
1月20日～21日 内閣文庫・東京大学附属図書館  
1月28日 蓬左文庫

小川陽子：9月17日 天理大学附属天理図書館

神作研一：8月9日～11日 国文学研究資料館・国会図書館  
8月30日～9月1日 国文学研究資料館・国会図書館

妹尾好信：12月5日～6日 九州大学附属中央図書館  
12月23日～24日 国文学研究資料館

田野慎二：12月24日～25日 国文学研究資料館  
2月7日～8日 跡見学園女子大学新座図書館  
2月14日～15日 大阪市立図書館

鶴崎裕雄：6月8日～9日 国文学研究資料館

西本寮子：12月23日～25日 国文学研究資料館  
1月28日～29日 国文学研究資料館

原 豊二：12月23日～25日 国文学研究資料館

古瀬雅義：12月23日～25日 国文学研究資料館  
1月20日～22日 宮内庁書陵部・国文学研究資料館

山本登朗：11月27日～29日 鉄心斎文庫  
1月15日 鉄心斎文庫

小林一彦：11月18日～20日 国文学研究資料館・国立歴史民俗博物館  
12月23日～25日 国文学研究資料館

#### [研究成果]

研究成果報告書『基幹研究「王朝文学の流布と継承」』（平成23年3月、国文学研究資料館発行、本編約500ページ、資料編DVD一枚）

内容、文献調査を起点とし、王朝文学の流布と継承の具体を検証したシンポジウム、和歌や物語・説話、日記・随筆といった諸ジャンルへの受容の問題、書誌学から見た王朝文学の在り様などを論じた論文集。論文42編、資料9編。すべて既発表のもの。Ⅰシンポジウム（4編）、Ⅱ和歌（12編）、Ⅲ物語・説話（15編）、Ⅳ日記・随筆（7編）、Ⅴ書誌学（4編）、DVD資料編（9編）。

#### 【19世紀における出版と流通】

プロジェクト代表者：谷川恵一

プロジェクト参加者：大高洋司、青田寿美、青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学教授）、勝又基（明星大学准教授）、加藤禎行（山口県立大学講師）、菊池庸介（福岡教育大学准教授）、木戸雄一（大妻女子大学准教授）キャンベル・ロバート（東京大学大学院教授）、佐々木亨（徳島文理大学教授）、島田大助（豊橋創造大学教授）、杉浦晋（埼玉大学教授）、鈴木俊幸（中央大学教授）、関肇（京都光華女子大学教授）、津田真弓（慶應義塾大学准教授）、十重田裕一（早稲田大学教授）、長尾直茂（上智大学准教授）、中丸宣明（山梨大学教授）、樋口恵（私立開智中学校・高等学校教諭）、山本和明（相愛大学教授）、山本陽史（山形大学大

学院教授)、湯浅佳子(東京学芸大学准教授)、渡辺麻里子(弘前大学准教授)

プロジェクト協力者:磯部敦(中央大学非常勤講師)

## (1) 概要

引き続き、資料調査とその分析を継続するとともに、研究の総括に向けて各自がそれぞれの課題についてまとめる作業を行った。成果については、次年度以降の調査研究報告に発表していく予定であり、あわせて関連学会における発表を検討している。

## (2) 活動記録

### [研究会]

- ・日程 平成 23 年 3 月 24 日(木)  
※年度末に予定していた下記研究会を、東日本大震災の影響のため中止した。
- ・場所 国文学研究資料館 第 2 会議室  
谷川恵一:読書する人々-自他楽会旧蔵書総目録と会員名簿-  
中丸宣明:読書と趣味-書籍貸付簿から見えてくるもの-  
木戸雄一:明治初期江差の読書空間

### [資料調査]

- 谷川恵一:8月25~27日 江差郷土資料館  
1月21日~23日 弘前市立弘前図書館
- 青田寿美:3月2日~3日 酒田市立光丘文庫  
12月17日~18日 神戸松蔭女子学院大学
- 青木稔弥:3月2日~3日 酒田市立光丘文庫
- 木戸雄一:8月25日~27日 江差町郷土資料館  
1月21日~23日 弘前市立弘前図書館
- 山本和明:8月25日~27日 江差町郷土資料館  
3月2日~3日 酒田市立光丘文庫
- 磯部 敦:8月25日~27日 江差町郷土資料館

### [研究成果]

磯部敦:「江差皇学舎と平田国学—江差町郷土資料館の調査をととして」、『調査研究報告』、31号、2011年3月、国文学研究資料館

山本和明・青木稔弥・青田寿美:「酒田『書籍購読会一途』瞥見」、『調査研究報告』、31号、2011年3月、国文学研究資料館

## 【近世地域アーカイブズの構造と特質】

プロジェクト代表者:高橋実

プロジェクト参加者:大高洋司、大友一雄、渡辺浩一、青木睦、西村慎太郎、山田哲好、入口敦志、加藤聖文、久留島浩(国立歴史民俗博物館教授)、白井哲哉(当館客員准教授・筑波大学大学院准教授)、西向宏介(広島県立文書館副主任研究員)、東昇(京都府立大学准教授)、松澤克行(東京大学助教)、山崎一郎(山口県文書館専門研究員)、山崎圭(中央大学准教授)、吉村豊雄(熊本大学教授)

プロジェクト補助者:榎本博(当館リサーチアシスタント)、崔誠姫(同)、南隆哲(同)

## (1) 概要

今年度は、館蔵の地域資料や地方名望家伝来史料、地域の史料保存機関が所蔵する資料を主な対象

に、①文書・書籍の作成や管理・保存、ならびに利用や廃棄のシステムを歴史的に究明する研究、②伝来経緯や環境に留意し組織の構造・機能との関連で資料群の全体像を理解する研究、③これらの情報の整理記述、モノそのもののコントロールについての研究という、3つの柱を設定し、研究会・資料調査、情報記述、情報の公開に関する試験的な試みを行った。今年度の研究会では、地域文書の作成・管理・保存のあり方を規定する幕藩政アーカイブズについて集中的に検討した。

## (2) 活動記録

### [研究会]

研究組織メンバーなどを中心に4回開催した。(一部は科研費による研究課題との合同研究会)

#### 第1回研究会

・平成22年5月29日 国文学研究資料館第2会議室

1. 高橋 実「趣旨・研究計画説明」
2. 渡辺浩一「中近世アーカイブズの多国間比較研究の成果と課題」
3. 来見田博基「鳥取藩政資料の伝来と町奉行所文書の文書綴り込みについて」
4. 高橋 実「秋田藩評定所の文書管理史料紹介」

・平成22年5月30日 国文学研究資料館第2会議室

5. 高橋 実「基幹研究趣旨説明」
6. 大友一雄「研究計画について」
7. 加藤聖文「アーカイブズの編成記述に関する一試論—国文学研究資料館における近現代資料の収集・整理を事例に一—」
8. 白井哲哉「地域アーカイブズ目録編成における「階層構造分析」論の課題」

#### 第2回研究会

・平成22年8月26日 国文学研究資料館第2会議室

1. 青木 睦「近世史料の紙質調査と組織体の料紙使用—現状と事例報告—」
2. 山崎一郎「毛利家文庫の形成過程と文書群構造」

・平成22年8月27日 国文学研究資料館第2会議室

3. 花岡公貴「高田藩榊原家文書の伝来と藩日記」
4. 新井敦史「下野国黒羽藩主大関氏の史料保存について」
5. 山田哲好「津軽藩の文書管理史料紹介」

#### 第3回研究会

・平成22年11月3日 国文学研究資料館第2会議室

1. 東昇「対馬藩における御内書・老中奉書の管理—文書箱とデータベース作成—」
2. 浅倉有子「『上杉家文書』の整理・管理とその変容」
3. 今後の研究方針について

#### 第4回研究会

・平成23年2月19日 国文学研究資料館第2会議室

1. 大友一雄「幕府老中職にみる執務体制と情報管理—真田家文書を事例に一—」
2. 富善一敏「アーカイブズ学と幕藩政文書管理史」

館内研究会(当基幹研究を推進するための館内研究者による研究会)

#### 第1回推進研究

・平成22年9月16日 国文学研究資料館第4会議室

西村慎太郎「収蔵歴史アーカイブズデータベースの構築に向けて」

#### 第2回推進研究

- ・平成22年9月30日 国文学研究資料館第4会議室

青木 睦「館蔵真田家文書ならびに真田家寄託文書について」

#### 第3回推進研究

- ・平成22年10月7日 国文学研究資料館第4会議室

山田哲好「収蔵歴史アーカイブズその他機関撮影情報の集約に向けて」

#### 第4回推進研究

- ・平成22年10月21日 国文学研究資料館第4会議室

渡辺浩一「尾張国神戸家文書の史料群構造研究」

大友一雄「尾張国名古屋渡辺家文書などの編成と記述」

#### 第5回推進研究

- ・平成23年1月6日 国文学研究資料館第4会議室

青木 睦「真田宝物館所蔵真田家文書の調査法と情報集約」

#### 第6回推進研究

- ・平成23年2月3日 国文学研究資料館第4会議室

工藤航平「真田宝物館所蔵真田家文書調査報告と今後の課題」

#### [資料調査]

主要な資料調査は次の通りである。とくに真田宝物館では館蔵真田家文書と関わり、文書群の伝来・保管の歴史について調査を実施した。また、当館所蔵資料の公開に関わり、国内諸機関による館蔵資料撮影情報の集約作業を実施した。

- ・真田宝物館所蔵真田家文書調査：平成23年1月22日～25日（機構資源化研究との合同調査）
- ・江川文庫所蔵江川家文書調査：平成23年2月11日～14日

## 2. 特定研究

### 【在米絵入り本の総合研究】

プロジェクト代表者：小林健二

プロジェクト参加者：齋藤真麻理、武井協三、寺島恒世、大友一雄、江戸英雄、恋田知子、小峯和明（立教大学教授）、石川透（慶應義塾大学教授）、徳田和夫（学習院女子大学・教授）、福原敏男（武蔵大学教授）、藤原重雄（東京大学助教）、高岸輝（当館客員准教授・東京工業大学大学院准教授）、キャンベル・ロバート（東京大学大学院教授）、渡辺雅子（メトロポリタン美術館主任研究員）、シラネ・ハルオ（コロンビア大学教授）、キンブロー・ケラー（コロラド大学准教授）、ストリッポリ・ロベルタ（ニューヨーク州立大学助教授）

#### (1) 概要

本年度は研究会を2回開催し、科研などで蓄積してきた研究内容の個別報告を行った。また、第2回の研究会では、来年度コロンビア大学で開催予定の国際シンポジウム「日本の視覚文化」のプレ発表会を行い、テーマに対する参加者の相互理解を深めるとともに問題点を検討した。資料調査では、

共同研究員の高岸輝・藤原重雄がアメリカ東地区の絵入り本調査を実施した。

## (2) 活動記録

### [研究会]

※一部は科研費による研究課題との合同研究会

第1回研究会 平成22年5月23日 国文学研究資料館第1会議室

1. 寺島恒世「三十六歌仙絵と時代不同歌合絵—スペンサーコレクション本・ウェーバーコレクション本を通して—」
2. 宮腰直人「スペンサーコレクション蔵『金平阿弥陀の光』について」

第2回研究会 平成23年1月10日 国文学研究資料館第1会議室

1. 江戸英雄「スペンサーコレクション『さごろも』」
2. 福原敏男「スペンサーコレクション『松原神垣之砂』」
3. 八反裕太郎「スペンサーコレクション蔵「住吉祭礼図巻」の史的特質」
4. 平成23年度国際シンポジウム「日本の視覚文化」のプレ発表会

### [資料調査]

高岸 輝：3月9日～20日 ボストン美術館・ハーバード大学燕京図書館・イザベラ・ガードナー美術館・イェール大学東アジア図書館・ニューヨーク公共図書館スペンサーコレクション（絵巻・絵本関連資料調査）

藤原重雄：3月9日～20日 ボストン美術館・ハーバード大学燕京図書館・イザベラ・ガードナー美術館・イェール大学東アジア図書館・ニューヨーク公共図書館スペンサーコレクション（絵巻・絵本関連資料調査）

## 【近世的表現様式と知の越境—文学・芸能・絵画による総合研究—】

プロジェクト代表者：山下則子

プロジェクト参加者：浅野秀剛（当館客員教授・大和文華館館長）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、岩切友里子（国際浮世絵学会編集委員）、加藤定彦（立教大学教授）、倉橋正恵（立命館大学客員研究員）、佐藤恵里（高知女子大学教授）、崔京国（明知大学校教授）、延広真治（東京大学名誉教授）、原道生（明治大学名誉教授）、安原真琴（立教大学非常勤講師）、吉丸雄哉（三重大学准教授）、光延真哉（白百合女子大学講師）、武井協三（当館副館長）、井田太郎（当館助教）、丹羽みさと（当館機関研究員）

プロジェクト補助者：陳可冉（当館リサーチアシスタント）

## (1) 概要

共同研究会を、合計6回開催した。毎回の共同研究会では、研究発表の他に購入した古典籍に関する報告・解説や、平成24年10月開催予定の展示会で展示する作品の選定や検討会も行った。中国名勝の縮模という表現様式を持つ庭園見学を行った。

## (2) 活動記録

### [研究会]

第1回 平成22年5月1日 小石川後楽園会議室

1. 陳可冉「林羅山『小廬山記』について」
2. 丹羽みさと「小石川後楽園の歴史と特徴」
3. 光延真哉「名物評判記と劇界—都立中央図書館所蔵『役者とんだ茶釜』を中心に」



## 第2回 平成22年7月28日 国文学研究資料館第1会議室

1. 倉橋正恵「役者似顔給金付について」
2. 丹羽みさと「国文研蔵 幾勝写「見かけはこわいがとんだいゝひとだ」小考」
3. 山下則子「国文研蔵『絵本花葛羅』について」
4. 浅野秀剛 展示資料解説

## 第3回 平成22年9月22日 国文学研究資料館第1会議室

1. 吉丸雄哉「近世における職人歌合」
2. 岩切友里子「錦絵の「絵兄弟」について」

## 第4回 平成22年12月27日 国文学研究資料館第1会議室

1. 伊藤善隆「俳諧見立番付とその周辺」
2. 崔京国「中国『乳虎図』の日本・韓国の受容」

## 第5回 平成23年1月22日 国文学研究資料館第1会議室

1. 佐藤恵里「「俄のつくりもの」について—猿猴庵高力種信の著作を中心に—」
2. 山下則子「近世期の三十六歌仙「歌意図」について—歌仙絵入版本と浮世絵『見立三十六歌撰』」
3. 浅野秀剛 展示資料解説

## 第6回 平成23年3月17日に開催予定であった次の会は、震災のため23年5月14日に延期した。

1. 原道生「「やつし」再考」
2. 山本和明「改刻本版下について—草双紙を例に—」

## [研究成果]

安原真琴「『扇の草子』の再検討—文化・文学・絵画を横断する新たな視覚文化—」、『文学・語学』199号、2011年4月

## [その他]

山下則子 3月5日 研究発表「幕末役者見立絵の見立て—『見立三十六歌撰』について—」研究集会「PUBLISHING THE STAGE, Print And Performance in Early Modern Japan」於アメリカ、コロラド大学

## 【陽明文庫における歌合資料の総合的研究】

プロジェクト代表者：中村康夫

プロジェクト参加者：井原今朝男（国立歴史民俗博物館教授）、倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）、久保木秀夫（鶴見大学講師）、後藤祥子（日本女子大学名誉教授）、小山順子（天理大学講師）、阿尾あすか（当館特定研究員）、佐藤明浩（当館客員教授・都留文科大学教授）、杉本まゆ子（宮内庁書陵部図書課宮内公文書館文書研究官）、名和修（財団法人陽明文庫文庫長）、日比野浩信（愛知淑徳大学非常勤講師）、山本登朗（関西大学教授）、海野圭介、寺島恒世

プロジェクト協力者：赤澤真理（日本学術振興会特別研究員（SPD））、舟見一哉（神戸市立工業高等専門学校講師）、山本啓介（新潟大学准教授）

プロジェクト補助者：吉田小百合（当館リサーチアシスタント）

## (1) 概要

本年度は展示図録の原稿を完成させることを目標とし、そのために、陽明文庫の調査を最終段階まで進めた。調査結果は国文学研究資料館と陽明文庫で行われた研究会において情報交換され、原稿内

容を調整し原稿として完成させた。研究は、単に展示することだけを考えたものにとどまらず、学会での各分野の進展の度合に応じて学界を十分裨益する内容になるものが必要であり、図録は、単なる写真集ではなく、一般の研究資料となるよう十分な取り組みを求めることにしている。

## (2) 活動記録

### [研究会]

#### 第1回研究会

平成22年8月16日 国文学研究資料館第2会議室

「各担当箇所の問題点報告と調整」

参加者：中村、倉本、久保木、後藤、小山、佐藤、杉本、名和、日比野、山本（登）、海野、寺島、赤澤、舟見、山本（啓）、吉田、中村（健）

#### 第2回研究会

平成23年3月9日～10日 財団法人陽明文庫

「二十巻本の文字について報告と再調査」

参加者：中村、久保木、後藤、小山、名和、日比野、山本（登）、海野、寺島、赤澤、舟見、中村（健）、吉田

## 【日本文学関連電子資料の構成・利用の研究】

プロジェクト代表者：古瀬蔵

プロジェクト分担者：相田満、青田寿美、大内英範（東京大学史料編纂所特任助教）、野本忠司

プロジェクト協力者：大友一雄、安永尚志（当館名誉教授）、永崎研宣（人文情報学研究所所長）、前川喜久雄（国立国語研究所グループ長）、五島敏芳（京都大学講師）

プロジェクト補助者：大野順子（当館リサーチアシスタント）、矢澤由紀（同）、大貫俊彦（同）

## (1) 概要

蔵書印データベースと観相オントロジ表示ツールの構築、データベースの情報提供・画像配信機能の高度化のための分析とシステム適用を行った。蔵書印やオントロジの情報は、知識ベースとして、国文学研究資料館の各データベース間の情報を関連づけることが期待できる。また、データベース化を目指して平成21年度まで資料調査を行った本文研究の成果を著書にまとめた。

## (2) 活動記録

### [研究会]

#### 最終報告会

・日程 平成23年3月24日（木）開催予定を変更して平成23年7月27日（金）に実施

・場所 国文学研究資料館第1会議室

1. 古瀬 蔵「国文研データベースの現状と課題」
2. 古瀬 蔵、青田 寿美「蔵書印データベースシステム」
3. 青田 寿美「文学研究の界域—忍頂寺務コレクションの全点印記調査を例に」
4. 大野 順子「蔵書印「子孫永保雲煙家蔵書記」について—その来歴と蔵書印主」
5. 大貫 俊彦「蔵書印データベースを用いた文化・文学研究の試み—大震災後の東京帝大図書館を支えた蔵書家たち」
6. 前川 喜久雄「国立国語研究所における言語資源の研究開発：反省と展望」
7. 相田 満「観相トピックマップ構築に向けて」
8. 矢澤 由紀「GISと地名辞書をめぐって」



9. 大内 英範「史料編纂所の DB とデジタルアーカイブ」

10. 永崎 研宣「日本文学関連電子資料に期待すること」

[研究成果]

- ・相田 満ほか、「The Origins and Current State of Digitization of Humanities in Japan」、Digital Humanities 2010、2010 年、講演
- ・大内 英範、『源氏物語鎌倉期本文の研究』、平成 22 年 5 月、おうふう、全 234 頁
- ・古瀬 蔵ほか、「国文学研究資料館の公開データベース」、EAJRS (European Association of Japanese Resource Specialists) Conference 2010、2010 年、講演

[その他]

- ・蔵書印データベース構築

人物情報の外部データベースのリンク付け作業を開始し、蔵書印データ採取と点検作業により蔵書印情報を質的かつ量的に充実化させ、外部公開用データベースシステムの構築を行った。

- ・観相オントロジに基づくトピックマップ構築

外部公開している歴史人物画像データベースの情報と観相情報をリンクさせ、トピックマップと呼ばれるネットワーク図により知識体系を可視化するシステムを構築した。

- ・国文学研究資料館公開および機構連携データベースシステムの機能高度化

データベースシステムのユーザビリティ向上のため、電子資料館ページなどデータベースの情報提供を行うユーザインタフェースの改良を実施した。

### 3. 国際連携研究

#### 【オランダ国ライデンを中心とするシーボルト関係日本書籍資料の調査研究】

プロジェクト代表者：鈴木淳

プロジェクト参加者：フォラー、マティ（ライデン国立民族学博物館学芸員）、浅野秀剛（大和文華館館長）、石川了（大妻女子大学教授）、鈴木俊幸（中央大学教授）、高倉一紀（皇學館大学教授）、陳捷（当館准教授）、川平敏文（九州大学大学院准教授）、青山英正（明星大学講師）、ボート、ウィリアム（ライデン大学教授）、スミッツ、イヴォ（ライデン大学教授）、コック、ダーン（ライデン大学非常勤講師）、大石房子（清泉女子大学非常勤講師）、一戸渉（金沢大学准教授）、牧野悟資（当館プロジェクト研究員）

プロジェクト協力者：神林尚子（当館リサーチアシスタント）

#### （1）概 要

ライデン国立民族学博物館及びライデン大学図書館においてシーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査を計 2 回実施し、書誌的データを集積した。また、研究会を国内 1 回、国外 2 回の計 3 回実施した。狂歌本に関する発表では、文化・文政年間の日本の出版史における狂歌本の位置を再認識することになった。また、今後の調査研究計画を立案するうえで重要な意見交換を行えた。成果物等としては、書誌的データの集積、論文、ワークショップがある。

#### （2）活動記録

[研究会]

#### 第1回研究会

- ・日程 平成22年5月29日
- ・場所 国文学研究資料館第1会議室
- 1. 鈴木淳「プロジェクトの概要と現状の説明」
- 2. 牧野悟資「現時点までの活動報告」
- 3. 今年度の研究計画に関する協議

#### 第2回研究会

- ・日程 平成22年9月19日
- ・場所 ライデン国立民族学博物館会議室
- 1. 牧野悟資「ライデン国立民族学博物館所蔵『花容女職人鑑』（フィッセル旧蔵本）の位置付け」
- 2. 今後の調査計画について

#### 第3回研究会

- ・日程 平成23年2月25日
- ・場所 ライデン大学
- 1. 鈴木淳「ブロンホフ、フィッセル、シーボルトが日本で蒐集した書籍—『シーボルト蒐集書籍目録』について—」
- 2. コック、ダーン「狂歌本の挿絵に見る知識層のインスピレーション」

#### [資料調査]

##### 第1回資料調査

- 鈴木淳、川平敏文、大石（金田）房子、牧野悟資、神林尚子
- ・日時：平成22年9月14日～22日
  - ・場所：ライデン国立民族学博物館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

##### 第2回資料調査

- 鈴木淳、鈴木俊幸、陳捷、青山英正、大石（金田）房子、牧野悟資、神林尚子
- ・日時：平成23年2月22日～3月2日
  - ・場所：ライデン大学図書館及びライデン国立民族学博物館（シーボルト等が蒐集した日本書籍に関する調査）

#### [研究成果]

鈴木淳、「オランダ国ライデン伝来ブロンホフ、フィッセル、シーボルト蒐集日本書籍の調査研究」、『国文研ニュース』、第22号、2011年春

#### [その他]

ワークショップ「ライデン大学所蔵のシーボルト関係資料」  
平成23年9月17日 ライデン大学図書館会議室、参加人数概数：教員7人、学生12人  
鈴木淳「ライデン大学所蔵のシーボルト関係資料について」

## 4. 公募共同研究

### 【近世風俗文化の形成—忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺—】

プロジェクト代表者：飯倉洋一（大阪大学大学院教授）

プロジェクト参加者：山下則子、近衛典子（駒沢大学教授）、福田安典（日本女子大学教授）、山本和明（相愛大学教授）、青田寿美、山崎ゆみ（京都女子大学准教授）、鷺原知良（佛教大学非常勤講師）、尾崎千佳（山口大学准教授）、川端咲子（神戸女子大学非常勤研究員）、内田宗一（東京家政学院大学准教授）、合山林太郎（大阪大学大学院講師）

## （1）概 要

本研究は、音曲をはじめとする近世風俗文化研究に多大な業績を残した故忍頂寺務の研究を再確認・再評価し、とくに近世風俗文化研究のあらたな展開のための基礎的研究を行うことを目的とする。

具体的な目的として以下の4点をあげたい。

1. 忍頂寺務旧蔵書の近世風俗文化史研究上の意義解明
2. 忍頂寺務草稿の翻字と刊行
3. 忍頂寺務の近世風俗文化学の再評価
4. 昭和前期までの近世風俗文化学形成のネットワーク的復元

忍頂寺務旧蔵書の調査については、青田（蔵書印）・内田（務宛書簡）の調査が引き続き行われ、8月には6名による仙台忍頂寺家の調査（3月に目録刊行）、1月9日・10日には研究員11名による忍頂寺文庫所蔵資料の全点再確認を行った。3月には成田山仏教図書館の務旧蔵書調査を山本が行った。研究概要の1・3・4については10月30日開催のシンポジウムの議論で認識を共有・深化させた。2については『近代歌謡考説』翻字の校閲を尾崎が行った。忍頂寺務年譜データベースは項目をかなり追加できた。来年度の報告書完成に向け、各自調査のまとめ・論文執筆を進めた。

## （2）活動記録

### 【打ち合わせ・研究会・シンポジウム・展示】

- ・第1回打ち合わせ 平成22年7月10日 大阪大学文学研究科大会議室
  1. 忍頂寺務年譜作成について
  2. 8月仙台調査・10月シンポジウムについて
- ・シンポジウム「近世風俗文化学の形成—忍頂寺務と忍頂寺文庫・小野文庫」  
同時開催 忍頂寺文庫資料展示  
平成22年10月30日 大阪大学文学研究科大会議室、参加人数 43名  
基調報告 武井協三「忍頂寺文庫の芸能資料—『女意亭有嘶』を中心に—」  
個別報告 内田宗一「書簡資料から見る忍頂寺務」  
福田安典「近世風俗文化学—忍頂寺務型モデルの提唱—」
- ・第2回打ち合わせ 平成22年10月31日 大阪大学文学研究科大会議室
  1. 8月仙台忍頂寺家調査の報告
  2. 報告書のコンテンツ・執筆者の割り当て
- ・研究会 平成23年1月9日・10日 大阪大学文学研究科 人文系演習室  
忍頂寺文庫所蔵資料の全点再確認

### 〔資料調査〕

飯倉洋一、福田安典、山本和明、青田寿美、鷺原知良、内田宗一：8月4日～6日 忍頂寺晃嗣氏宅（仙台市）

山本和明：2月25日～26日 成田山仏教図書館（忍頂寺務寄贈書目調査）

青田寿美：7月11日～13日、11月1日～11月2日、1月11日、3月5日～7日

3月26日～29日 大阪大学（小野文庫蔵書調査）

内田宗一：8月24日～27日 大阪大学（務宛書簡関連調査）

8月31日～9月3日 天理大学附属天理図書館（務宛書簡関連調査）

3月4日～7日、3月26日～29日 大阪大学（務宛書簡関連調査）

#### 【研究成果】

青田寿美：『『早稲田大学文学講義』特別附録「西鶴織留輪講」について（承前）」、『国文研ニュース』No. 20、平成22年8月、国文学研究資料館

鷺原知良：「水越耕南『遊箕面山詩』について」、『混沌』34号、平成22年12月

青田寿美・飯倉洋一・内田宗一・福田安典・山本和明・鷺原知良：「仙台忍頂寺家所蔵資料目録」、『調査研究報告』31号、2011年3月、国文学研究資料館

川端咲子・正木ゆみ「忍頂寺文庫蔵『開帳おどけ 仮手本忠臣蔵』本文と注釈（二）」（2010年度大阪大学大学院文学研究科共同研究（国文学研究資料館研究連携事業）研究成果報告書『忍頂寺文庫・小野文庫の研究』5、平成23年3月

#### 【研究発表・講演】

福田安典：9月19日 講演「忍頂寺務について」（正宗寺、松山子規会）

12月12日『『清元研究』と忍頂寺務』（歌舞伎学会 日本女子大学）

### 【久世家文書の総合的研究】

プロジェクト代表者：日下幸男（龍谷大学教授）

プロジェクト参加者：浅田徹（お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授）、海野圭介（国文学研究資料館・研究部・准教授）、岡村喜史（龍谷大学・文学部・准教授）、西山美香（明治大学・政治経済学部・兼任講師）、藤本孝一（龍谷大学・文学部・客員教授）、安井重雄（兵庫大学・短期大学部・准教授）、小林健二（国文学研究資料館・研究部・教授）、西村慎太郎（国文学研究資料館・研究部・准教授）、五島敏芳（京都大学・総合博物館・講師）

プロジェクト協力者：坂口太郎（京都大学・大学院人間環境学研究科・博士後期課程）、万波寿子（龍谷大学・文学部・非常勤講師）、舟見一哉（神戸市立工業高等専門学校・講師）、阿尾あすか（国文学研究資料館・特定研究員）、足立賀奈子（龍谷大学・大学院文学研究科・博士後期課程）

プロジェクト補助者：中村名津美（龍谷大学・大学院文学研究科・博士前期課程）、豊岡瑞穂（龍谷大学・大学院文学研究科・博士前期課程）

#### （1）概要

平成21年度に引き続き、国文学研究資料館所蔵の久世本調査を集中的に実施し、8月までの調査で1800番まで調査カードを採取した。残りの分については2月までの調査でほぼ完了した。上記の調査を踏まえて、研究代表者の日下幸男が、「久世家文書の研究」（国文学研究資料館紀要 文学研究篇 第37号）を執筆し、久世家の歌人として著名な久世通夏を研究する上での重要史料である『久世通夏日記』と『通夏詠草留』の概要を紹介し、関連する中院文書にも触れて紹介した。

#### （2）活動記録

定期調査 於：国文学研究資料館

平成22年4月25日～26日 参加者：日下幸男、海野圭介

平成22年5月19日～21日 参加者：日下幸男、海野圭介

平成23年2月14日～18日 参加者：日下幸男、中村名津美、豊岡瑞穂



第一回資料調査・検討会 於：国文学研究資料館

平成 22 年 8 月 1 日～7 日

参加者：日下幸男、舟見一哉（8 月 1 日～4 日）、浅田徹（8 月 2 日～6 日）、万波寿子（8 月 2 日～4 日）、五島敏芳（8 月 3 日～7 日）、藤本孝一（8 月 3 日～6 日）、坂口太郎（8 月 5 日～6 日）、海野圭介（8 月 19 日～20 日）

第二回資料調査・検討会 於：国文学研究資料館

平成 22 年 8 月 22 日～28 日

参加者：日下幸男、五島敏芳（8 月 24 日～27 日）、藤本孝一（8 月 25 日～27 日）、西村慎太郎（8 月 23 日～24 日）、安井重雄（8 月 22 日～25 日）、中村名津美（8 月 22 日～28 日）、豊岡瑞穂（8 月 22 日～28 日）、足立賀奈子（8 月 24 日～26 日）

龍谷大学日下幸男研究室蔵資料調査 於：龍谷大学

平成 22 年 8 月 19 日～20 日

参加者：日下幸男、海野圭介

## 5. 予備研究

### 【近世における蔵書形成と文芸享受】

プロジェクト代表者：大高洋司

プロジェクト参加者：久保田啓一（広島大学大学院教授）、大谷俊太（奈良女子大学教授）、勝又基（明星大学准教授）、神作研一（金城学院大学教授）、井上敏幸（佐賀大学特任教授）、入口敦志

#### （1）概 要

個人蔵書家 7 ヲ所を研究対象に定め、従来調査員をつとめてきた研究者を中心にチームを形成してそれぞれの研究課題を策定の上、準備研究会・予備調査を行って、新年度からの本研究に備えた。

1. 八戸市立図書館南部家旧蔵本…大名家における和歌と俳諧
2. 矢口丹波記念文庫（群馬県高崎市、矢口家〈八幡八幡神社〉）…神社において、多数の文芸資料を含む諸ジャンルの書籍を筆写することの意義
3. 新日吉神宮蘆庵文庫（京都市、新日吉神宮）…文芸資料の読解と非蔵人文書の分析
4. 祐徳稲荷神社（佐賀県鹿島市 鍋島家）…近世初期・幕末を中心とする大名文化圏の研究
5. 三島市郷土資料館勝俣文庫（静岡県、勝俣家）…近世後期の地方豪農における、俳諧活動と文芸享受
6. 富加町郷土資料館（岐阜県、平井家）…近世中・後期の地方豪農における、和歌・俳諧を通じた都市知識人との交流
7. 手銭家（島根県出雲市）…地方豪商の妻女における、韻文を中心とする文芸活動

#### （2）活動記録

[研究会]

準備研究会：平成 23 年 1 月 28 日（金） 国文学研究資料館第 1 会議室

1. 全体計画の説明
2. 各チームのメンバー紹介と研究計画の説明
3. 井上敏幸「肥前鹿島藩の書籍—祐徳稲荷神社蔵中川文庫を中心に—」

[資料調査]

・祐徳稲荷チーム

井上敏幸、入口敦志、菊池庸介、進藤康子、菱岡憲司、若木太一：12月4日～5日 祐徳稲荷神社（中川文庫）・鹿島市民図書館（中川文庫関係史資料類）

・蘆庵文庫チーム

大谷俊太、加藤弓枝、盛田帝子：2月17日～18日 新日吉神宮蘆庵文庫

・矢口丹波チーム

大高洋司、大石房子、牧野悟資：2月15日 矢口丹波記念文庫



## 情報事業センター

### 1. 調査収集事業部

#### 【総括】

調査収集事業部では、今年度も国内外の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、国内外の所蔵機関（92ヶ所）に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。収集については、予定点数の約7割の成果となった。

調査収集の成果を共有し、更に広く社会に還元するため、平成18年度に開始した調査収集の成果を基盤とする基幹研究「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」を継続して進めた。なお、昨年度に引き続き本年度も「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

#### 【国内外の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

##### （1）日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成22年度においては、約7,600点の調査、約2,260点の収集を行った。中心となる地域別調査・広域調査（計89ヶ所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（計3カ所）を行った。

##### （2）日本古典籍資料調査データベース

平成21年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,600件、書誌データ約6,500件の入力を行った。現在約144,000件が利用に供されている。約10,000件ずつ蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

##### （3）調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』31号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第6期40点を刊行中である。

##### （4）調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果はこれまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、今後それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度より当館の基幹研究として「文学資源の総合研究」というテーマのもとに「王朝文学の流布と継承」「十九世紀の出版と流通」の共同研究を開始した。調査員が共同研究者として加わり、5年間の共同研究を行うものであり、平成22年度はその最終年度となった。そのため、両研究それぞれ成果を取りまとめ、報告書を刊行するとともに、次年度刊行予定報告書・著書等の準備を進めた。

#### 【アーカイブズ調査・収集】

##### （1）目録による史料群所在情報の調査



全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

## (2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、信濃国松代真田家文書（12・完）・愛知県下諸家文書（その1）・尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書（その4）を収録した『史料目録』第91・92・93集の3冊を刊行した。

## (3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

信濃国松代真田家文書に関連して真田宝物館の調査を行い、昨年に引き続き手書き目録を電子化したデータベースを活用して調査の実施基盤を整備した。

幕藩関係文書では、韮山市江川文庫の調査を行い、デジタル撮影による収集（165点）を実施した。

## 2. 電子情報事業部

### 【総括】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用をはかり、研究および事業の成果を電子情報として組織化し、データベース化を進め、研究者、大学院生、社会一般に、インターネットにより提供している。さらに、国内外の関連研究機関などとの連携を進めている。

情報システム環境は、第7期情報システム計画（平成17-22年度）の最終年度に当たり、平成18年2月1日に第6期情報システムからリプレース後平成23年1月31日までの5年間、滞りなくその役目を全うし、同年2月1日から第8期情報システム計画に移行している。

第8期情報システムへの移行期に、数度のシステム停止を行っているが、一年を通じては、ほぼ24時間不断の稼働を保持し、情報システムと情報資源の安定的な管理運用を行い、高い信頼を得ている。

データベース公開事業は、26本のデータベースの公開を滞りなく行っている。安定的な公開を図るためデータ追加、更新などは時機を見つつ可能な限り迅速に対応している。各データベースには、個々に責任者と担当者を置き、高信頼度のサービスを維持している。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の管理運用業務は、学術情報課に属するシステム管理係と学術情報係が当たっている。また、データベースサービスシステムの運用管理を行っている。加えて、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

デジタル画像公開に関して、今年度は館蔵和古書画像の画像公開を進めるとともに、これまで「館蔵和古書画像データベース（試行版）」として公開していた画像データを「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」からの画像公開システムへの統合作業を行い完了した。

電子情報事業部において、年度計画に応じた全事業は滞りなく進捗し、目標を達成し、利用者からも高い評価を得た。今年度も、情報システム環境の整備とデータベースを中心とする情報資源の機能拡充に寄与した。情報資源のホームページからの公開は、利用者、アクセス数等の増大、並びに各種意見や要望への対応により、高い社会性と公開性を達成した。

今年度は3月11日に東日本大震災が発生し、本館でも気象庁発表で震度5弱（東京都多摩地区）を記録した。館が業務を行っている立川総合研究棟は免震構造となっていることもあり、発生した地震の影響は最小限に留められシステムに障害は発生しなかった。しかし、その後東京電力により行われた計画停電の影響を受け、3回のシステム停止、再起動を行っている。

### 【電子情報事業部の運営】

#### （1）組織体制と運営

部長（古瀬蔵教授）を置き、副部長（山田哲好准教授）他、10名の教員の体制により事業を運営し、システム管理係、学術情報係が実務処理を担当した。

第8期情報システム入れ替えのための仕様策定委員会及び技術審査会を開催し、平成22年9月に開札、平成23年2月1日までに導入を終え運用を開始している。

隔月毎に定期的に部会を行い、全事業の進捗度をチェックし、計画の実施状況の把握と評価に務めた。また、電子情報事業に関わる多種の事項について審議、立案等を行った。

## (2) 情報システムの運用管理

情報システムは、UNIX サーバおよび Windows サーバによる分散型システムと館内 LAN（基幹系、支線系 1GB）に接続されたクライアント PC とで構成され、主に館内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による館外データベースサービス等に用いられている。

第 7 期情報システムは平成 18 年 2 月 1 日より稼働を開始し、本年度も継続して運用した。平成 23 年 1 月にその運用期間を終了、平成 23 年 2 月より第 8 期情報システムが本格的に稼働を開始している。管理運用体制として、部長、副部長、他、10 名の教員が当たり、実務、事務処理はシステム管理係並びに学術情報係が担った。なお、システムの日常的な監視、操作、記録等の実務作業は、部長、システム管理係の指示により、外注 SE に分担させた。

情報システムは、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークから構成されるが、これらそれぞれについて、ほぼ 365 日 24 時間不断の安定稼働を実現している。情報システムに関する実績評価分析は、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）による。また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行っている。とりわけ、情報システムで稼働しているデータベースの安定的稼働に努め、館内外の研究者等に重要なデータベースサービスを提供した。

平成 22 年 2 月 1 日から引き続き研究事業用システム端末（97 台）及びプリンター（24 台）の運用を行っている。特にセキュリティ、データ保守を重視し、システムソフトウェアのアップデートの一元管理、各 PC データの自動バックアップ等の仕組みを取り入れている。

平成 20 年 2 月 1 日から引き続き事務情報システム端末（37 台）及びプリンター（8 台）の運用を行っている。データ保守を重視し、各 PC のデータ領域をファイルサーバ上に構築する仕組みを取り入れている。

## (3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努め、また電子メール等へのウイルス進入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ等を可能な限り速やかに行い、対処し、高信頼性の運用を保持した。

第 7 期情報システムでは、とくにセキュリティ対策に万全を期すため、厳重な接続機器の管理を個々に行っている。また、セキュリティと利便性を両立させるため、スパムファイアウォールと SSL-VPN を運用している。第 8 期情報システムでは、第 7 期情報システムの機能を生かしつつ、機器管理の集中化を図っている。

## (4) 情報資源の運用管理

公開されている 26 本のデータベースの、年間を通じて切れ目のない 24 時間安定的な稼働を行い、館内外の利用者の評価を得た。データベースによっては、時機を見つつデータの追加拡充を進め、また誤り等の更新を速やかに行っている。なお、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、高信頼度の運用を行った。

## (5) 情報サービスの向上

目的のデータベースへのアクセス数向上を進めるため、アクセス元情報等の利用統計分析、および、ウェブページのデザイン等の変更を行った。

## 【第8期情報システムへの移行に関する評価】

### (1) 第8期情報システムの仕様

第8期情報システムでは、館の主なサービスである公開データベースの安定的な運用、公開を行うためにより良いシステムがないか検討を重ね、基本は第7期情報システムの仕様を継続することとしつつ、ハードウェアと基幹ソフト（OS）について、現時点でのデファクトスタンダードである Intel 系 CPU によるサーバと、政府、教育系機関で広く採用されている Linux OS（本館では Redhat Enterprise Server）の組み合わせを採用した。

また、既存データベースの RDBMS についても、Oracle DB から Linux OS と親和性の高い PostgreSQL DB へ移行した。Linux OS はアップデート頻度が高く、かつ容易に適用可能な仕組みが用意されており、また公式非公式の別無く世に広くドキュメントが充実しているため、データベースの使い勝手は現状を維持しつつ、運用管理コストは飛躍的に向上することが期待される。

また、サーバについては VMWare による仮想化サーバを採用し、1 台の物理サーバ上に複数のサーバを仮想的に用意することができるようになった。また、割り当てるリソースをそのサーバの用途に合わせて詳細に調整し設定することが可能となった。これにより、サービスの数だけ独立した物理サーバを用意することに比べ低コストでの環境構築を実現し、また、新規サーバの設置や削除が設定 1 つで可能になったことにより、需要に応じてダイナミックにシステム構成を変更することが可能になった。

その他、メールサーバ等の館内サービス系のシステムも、上記方針に合わせて入れ替えが行われている。ネットワークについては、レイヤ 2 経路をリング構成にする（ERP）ことにより障害に対する冗長性を高めている。

### (2) 第8期情報システムへの移行

第8期情報システムへの移行は、9 月上旬に行われた開札の後、当館関係者と納入事業者を交えて平成 22 年 9 月末に行った打ち合わせ会議から実質的に始動、翌年 1 月中旬に切り替えを行い半月間の総合テストを経て、平成 23 年 1 月末に全日程を終了している。メールシステムや画像サーバについて、一部移行トラブルが発生したが、大筋において予定通りの移行が行われた。

### (3) 保守対応

その他大きな変更点として、第7期情報システムでは常駐 SE を仕様盛りこんでいたが、第8期情報システムでは別調達とした。これは、仕様をできるだけ機器、システムの仕様に絞ることで、調達に参加が可能な事業者を増やし、競争性を高めることを目的としたものである。

今年度は 2 月及び 3 月の期間で別途調達を行い、管理運用や運用マニュアル作成等の支援を行っている。

### (4) 日本古典文学本文データベースの扱いについて

このデータベースは、第7期情報システムで調達したサーバ上で稼働、運用を行っていたが、元々第6期情報システムの中核サーバである Solaris サーバに合わせ、ソースコード開発からコンパイルまでおこなっていたため、同じく Solaris サーバを採用した第7期情報システムではそのまま稼働したが、Linux を採用した第8期情報システムのサーバ上では稼働せず運用することは困難と判断、第8期情報システムとは別調達とした。

## 【個別事業の実績、評価】

### (1) 情報システムの運用管理

情報システムと情報資源のセキュリティ確保と安定的運用管理を行うため、以下のように業務を行

った。

#### ① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ作業等は、部長の指揮の下、システム管理係により実施した。監視と操作作業は外注SEにより行い、係において分析評価した。今年度においては、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因する重大なシステム障害、およびネットワーク障害、さらに外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの停止は、計画停電のために1回あった。）

一方、PC系、プリンタ系の障害等については、システム管理係および業者の保守窓口による対応を図った。

#### ② 共同利用の推進

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的に関わり、その責務を果たしている。また、人間文化研究機構に属する機関のうち、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、国際日本文化研究センター、国立国語研究所との安定的なシステム接続運用を行った。

#### ③ 情報セキュリティの推進

平成21年4月1日に制定した情報セキュリティポリシーを今年度も継続して運用している。今年度は、ポリシーに基づきリムーバブルメディアの利用制限などを行っている。

#### (2) データベースの管理運用

データベースと関連システムの保存と運用管理を行っている。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密な関係の下に、事業協力を行っている。

当館ホームページ「電子資料館」のページから公開しているデータベースは以下の通りである（各データベースの概要は付表1参照）。

- 図書・雑誌所蔵目録（OPAC）
- 日本古典籍総合目録
- マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録
- 国文学論文目録データベース
- 日本古典資料調査データベース
- 近代書誌・近代画像データベース
- 明治期出版広告データベース
- コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録
- 古筆切所収情報データベース
- 和刻本漢籍総合データベース
- 連歌・演能・雅楽データベース
- 古典学統合データベース（芳賀人名・地下家伝）
- 伝記解題データベース
- 収蔵歴史アーカイブズデータベース※
- 「史料所在情報・検索」システム※
- 史料情報共有化データベース
- 伊豆韭山江川家文書データベース
- アーカイブズ学文献データベース
- 館蔵神社明細帳データベース
- 日本文学国際共同研究データベース（イタリア論文データベース、日本学研究データベース、など）

- 日本古典文学本文データベース
- 古典選集本文データベース（二十一代集データベース、吾妻鏡データベース、絵入源氏物語データベース、歴史物語データベース）※
- 古事類苑データベース
- 歴史人物画像データベース
- 新奈良絵本データベース※
- 日本実業史博物館コレクションデータベース※

※

〈注〉※印を付したデータベースは、今年度システム変更・大幅なコンテンツ追加を行った。  
(データベース利用統計は付表2を参照)。

上記の各データベースは、データベース管理簿を作成し、整理し、管理している。とくに、知的財産権に関わる権利関係を明確にした。また、人間文化研究機構全体のデータベース台帳の作成に協力している。

付表1 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

書 誌 目 録	図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約 130,000 件、雑誌約 8,300 タイトル。
	マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録	当館所蔵のマイクロ/デジタル資料 (国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍をマイクロ・デジタル撮影し、収集した資料) と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書のデジタル画像ヘリンクあり (一部)。マイクロ/デジタル資料約 214,000 件、和古書約 15,000 件。
	国文学論文目録データベース	国文学関係論文 (大正元年～平成 20 年) の目録データベース。約 486,000 件。
	日本古典籍総合目録	日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ/デジタル資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約 462,000 件、著者約 68,600 件、書誌約 477,000 件。
	コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のビーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。一部原本画像の公開もあり。約 13,000 件。
	日本古典資料調査データベース	当館が 30 年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像も参照可能)。約 144,000 件。
	近代書誌・近代画像データベース	平成 10 年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。書誌約 32,500 件、画像約 1600 件。
	明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的として、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成したものです。約 38,600 件の広告を収めており、書名・書肆検索や広告本文の全文検索機能も備えています。
	古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約 23,000 件。
	和刻本漢籍総合データベース	当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース。現在、序跋刊記情報のみ。
	連歌・演能・雅楽データベース	寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース



	古典学統合データベース（芳賀人名・地下家伝）	日本の古典研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一（1867-1927）編『日本人名辞典』（1914）と〔三上景文著；正宗敦夫（1881-1958）編纂校訂『地下家伝』（日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8）6冊をデータベース化したものを搭載。歴史人文画像データベースにもリンク。
	伝記解題データベース	当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
	日本文学国際共同研究データベース	科研費基盤研究（S）「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等。
	収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心に、マイクロフィルムによる関連収集史料、寄託史料などを含む歴史アーカイブズに関する概要及び史料目録データベース（画像掲載あり）。
	「史料所在情報・検索」システム（試験公開）	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース（詳細版は利用登録制）。
	史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群（アーカイブズ）情報のデータベース（歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築）。
	伊豆荊山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
	館蔵神社明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187件。
	アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献のデータベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。11,000件。
	日本古典文学本文データベース	『日本古典文学大系』（旧版、岩波書店刊）の全作品（100巻580作品）の本文（テキスト）データベース（利用登録制）。
本 文	古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語。古典作品原本の全文検索が可能。当館蔵書底本とし、泣き別れ検索にも対応。歴史物語は、栄花物語、大鏡、今鏡、水鏡、増鏡により構成。
	古事類苑データベース	完成から約1世紀が経とうとしているにもかかわらず、日本最大規模の地位を今なお保ち続けている百科事典『古事類苑』のデータベース。テキスト版『天部』『歳時部』『地部』『称量部』と、全文検索版『天部』『歳時部』『地部』を公開。
	歴史人物画像（古典キャラクター）データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像（約3100名・4700件）のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。
画 像	新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本（19本）の原本画像データベース（翻刻付）。
	日本実業史博物館コレクションデータベース	このデータベースは、日本実業史博物館準備室旧蔵資料の内の絵画・器物・広告の資料情報6,936件と13,643件の画像を公開。



平成 22 年度 データベース利用統計 付：データベースサービスシステム総合窓口業務統計

データベース名	種 類	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
(1-1) 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	検索件数(a)	18,682	21,308	29,436	25,837	26,061	23,842	23,403	24,736	23,247	18,218	—	—	234,770
(1-2) 図書・雑誌所蔵目録 (OPAC) ※2011. 02. 01 システム移行	検索件数(h)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21,592	17,511	39,103
(2) マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録	検索件数(i)	6,658	6,641	7,525	6,139	7,951	6,728	6,268	7,775	5,920	3,525	7,594	5,357	78,081
(3) 国文学論文目録データベース	検索件数(i)	70,563	88,455	90,283	88,938	57,417	66,307	92,646	97,351	90,251	34,556	42,230	27,157	846,154
(4) 日本古典籍総合目録	検索件数(i)	37,148	46,998	45,164	42,444	42,611	42,661	59,274	58,178	52,593	22,158	47,625	34,517	531,371
(5) コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録	検索件数(i)	1,206	696	691	895	791	853	923	907	786	290	132	99	8,269
(6) 日本古典資料調査データベース	検索件数(i)	1,957	1,785	1,977	2,638	2,784	2,098	2,018	2,326	2,227	1,125	1,634	1,106	23,675
(7) 近代書誌・近代画像データベース	検索件数(i)	1,496	2,178	2,005	2,604	1,801	1,814	1,944	2,627	2,404	1,070	1,052	591	21,586
(8) 明治期出版広告データベース	検索件数(i)	394	391	328	384	326	324	466	429	586	165	114	98	4,005
(9) 古筆切所収情報データベース	検索件数(i)	509	438	586	571	600	738	461	439	554	171	395	238	5,700
(10) 和刻本漢籍総合データベース	検索件数(i)	427	410	401	445	474	402	574	558	496	169	223	180	4,759
(11) 連歌・演能・雅楽データベース	検索件数(i)	1,098	1,247	1,357	1,254	1,182	1,318	1,312	1,315	1,210	594	238	198	12,323
(12) 収蔵歴史アーカイブズデータベース ※2010. 06. 14 システム移行	利用回数(i)	—	—	353	415	424	464	400	371	394	156	278	302	3,557
(13-1)「史料所在情報・検索」システム	検索件数(a)	78	163	223	182	142	145	66	132	150	101	—	—	1,382
(13-2)「史料所在情報・検索」システム ※2011. 02. 01 システム移行	検索件数(i)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	101	96	197
(14) 史料情報共有化データベース	検索件数(i)	1,157	1,388	585	637	588	822	782	988	865	324	716	597	9,449
(15) 伊豆斐山江川家文書データベース ※2010. 06. 14 システム移行	利用回数(i)	—	—	135	86	158	100	76	119	126	136	95	77	1,108
(16) 日本古典文学本文データベース (2011. 3 計画停電の影響により停止)	新規登録者数	18	33	23	25	17	11	26	15	14	14	3	3	202
	検索件数(a)	2,639	2,694	2,549	2,894	2,443	3,180	3,817	3,586	3,133	2,540	2,673	794	32,942

データベース名	種 類	21年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
(17) 二十一代集データベース	検 索 件 数 (i)	1,129	2,215	2,524	1,706	1,335	1,208	2,596	2,715	2,210	1,113	1,199	893	20,843
(18) 吾妻鏡データベース	検 索 件 数 (i)	347	600	458	511	1,055	916	1,083	1,104	1,224	434	942	868	9,542
(19) 絵入源氏物語データベース	検 索 件 数 (i)	275	398	683	349	314	287	466	430	381	124	115	108	3,930
(20) 歴史物語データベース 2010. 06. 14 公開	検 索 件 数 (i)	—	—	230	285	201	200	406	284	246	57	125	122	2,156
(21-1) 古事類苑データベース (テキスト版)	ページ閲覧数 (a)	29,915	42,491	21,937	48,784	55,644	50,261	59,752	75,939	101,540	44,863	137,215	86,443	754,784
(21-2) 古事類苑データベース (全文検索版)	検 索 件 数 (i)	447	650	506	682	489	414	630	1,233	716	222	274	336	6,599
(22-1) 歴史人物画像データベース	ページ閲覧数 (a)	28,405	30,591	14,963	37,342	33,148	28,909	35,888	31,524	24,841	11,357	43,371	26,076	346,415
(22-2) 歴史人物画像データベース	検 索 件 数 (i)	1,320	967	1,659	1,197	2,640	1,698	1,607	1,433	1,626	588	1,134	1,125	16,994
(23-1) 新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数 (a)	46,169	100,680	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	146,849
(23-2) 新奈良絵本データベース ※2010. 06. 09 システム移行	ページ閲覧数 (a)	—	—	1,356	2,355	1,137	1,789	2,909	2,627	3,833	1,046	578	278	17,908
(24-1) 実業史絵画データベース	利用回数 (o)	7,297	8,356	971	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16,624
(24-2) 日本実業史博物館コレクションデータベース ※2010. 06. 07 システム移行	検 索 件 数 (i)	—	—	344	227	100	198	200	199	216	89	100	140	1,813
(25) 館蔵和古書画像データベース ※2011. 02. 27 マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録へ統合	検 索 件 数 (a)	512	650	448	809	604	783	794	967	1,505	1,668	10	—	8,750
(26) 古典学統合データベース	検 索 件 数 (i)	395	376	527	831	516	453	846	980	724	182	817	708	7,355
(27) 伝記解題データベース	検 索 件 数 (i)	326	273	291	302	321	304	342	354	336	96	83	81	3,109
(28) 日本文学国際共同研究データベース	検 索 件 数 (i)	1,790	1,662	1,818	1,870	2,034	1,986	2,469	2,270	2,143	430	196	197	18,865
(29) 館蔵神社明細帳データベース	検 索 件 数 (i)	380	305	413	394	397	383	428	494	408	155	263	356	4,376
(30) アーカイブズ学文献データベース	検 索 件 数 (i)	367	385	355	381	341	324	379	436	405	81	88	92	3,634

## データベースサービスシステム総合窓口業務 件数

Web 受付	10	4	9	9	9	7	10	13	5	6	6	4	92
e-mail 受付	12	12	15	17	6	28	28	22	20	26	26	19	231

動作環境 (i): InfoLib (a): apache (h): HelloLibrary

### 3. 情報資料サービス事業部

#### 【総括】

平成17年度から継続的に実施してきたTAC（トリアセテートセルロース）ベースマイクロフィルムの複製化について、今年度で対象となっていた全リールの複製が終了し、所蔵マイクロフィルムの劣化対策が一応完了した。フィルムの保存に関しては、昨年度永久保存マイクロフィルム保管庫が完成し、環境調査を行った上で、昨年3月に保管委託していたフィルムを搬入し、適切かつ安定した環境のもとで保存を続けている。

所蔵資料のデジタル化については、昨年度取り決めた館蔵・収集資料デジタル化の方針に基づいて撮影・公開を進めている。今年度は、貴重書・特別コレクション・大型資料約250点のデジタル撮影を実施したほか、マイクロフィルムからのデジタル化も並行して行った。収集マイクロフィルムについても、西尾市岩瀬文庫および肥前島原松平文庫のデジタル化を進めた。また、館蔵和古書画像データベース（試行版）の館蔵和古書画像の「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」への統合を行った。これらの結果、「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」から閲覧できる資料画像は約7,500件となった。

画像のウェブ上での公開には、対象資料の目録作成が不可欠であるが、和古書のコレクションなどの目録滞貨が減少しない状態にある。また、目録作成に必要な現有の知識と技術が次世代にうまく継承されるかどうか危惧されるところである。早急かつ適切な措置が望まれる。

#### 【図書資料の収集】

##### （1）概要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて収集している。古典籍原本の収集については、『源氏物語』鎌倉時代写本、藤原定家筆『新古今和歌集撰歌草稿』断簡などの貴重資料を購入する一方、古典作品の諸本を丹念に収集していく必要性を再確認し、選定をおこなった。

##### （2）活動記録

今年度の受入資料数は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

資料種別			点数等		冊数等	
			平成 22 年度	累 積	平成 22 年度	累 積
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	1,652 点	184,995 点	259 リール	41,099 リール
		歴 史	4 件	193 件	6 リール	5,859 リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	0 点	16,667 点	0 枚	57,358 枚
	紙 焼 写 真 本	日本文学	—	—	101 冊	75,122 冊
		歴 史	—	—	0 冊	11,196 冊
	図 書	写 本 ・ 版 本		175 点	10,909 点	975 冊
活 字 本 ・ 影 印 本 等		—	—	2,722 冊	162,608 冊	
逐 次 刊 行 物		1,638 誌	8,343 誌	—	—	
所 蔵 史 料			11 件	457 件	—	約 500,000 点
寄託資料・寄託史料		日本文学	0 件	10 件	5 冊	14,597 冊
		歴 史	0 件	17 件	0 件	7,032 点



## 【図書資料の受入・整理】

### (1) 概 要

旧史料館所蔵の図書・逐次刊行物の目録遡及入力を継続して行っている。図書は2年間で全体約80,000冊の3割弱がOPACで検索可能になった。逐次刊行物は3年で約2,900タイトルのうち約8割を占める歴史のみ所蔵のものの入力が終了し、国文と歴史の所蔵巻号の移動調整を伴う部分が残っている。

マイクロ資料の目録作成に関しては、滞貨の解消に努め、今年度は約3,100件の書誌データの登録を行った。また、平成20年度に受贈した歴史民俗博物館所蔵高松宮家伝来禁裏本の紙焼写真（約81,000コマ）についても、昨年度から進めてきた書誌データ作成を、今年度末でほぼ終了する予定である。なお、平成16年度から進めてきたデータベース移植時のマイクロ書誌・著作未コントロール分処理についてはすべて終了した。

### (2) 活動記録

以下の活動を行った。

#### ① 寄贈・寄託資料の受入

「千葉県松戸市蜂屋家文書」ほかの寄贈資料受入を決定した。主な寄贈・寄託資料は以下のとおりであった。

#### 資料2 主な寄贈・寄託資料

申込種別	所蔵者	内 容	点 数	区 分
寄託 追加	木藤才蔵	蕪村筆暁台宛書状 ほか	5点	国文
寄贈 新規	伊藤宣彦	和歌山県那賀郡粉川町伊藤家文書	84件	歴史
寄贈 新規	加原富久子	千葉県松戸市蜂屋家文書	未詳 (27箱)	歴史
寄贈 追加	松野陽一	江戸歌人短冊 (石野廣道ほか)	67点	国文
寄贈 新規	手島兵次郎	手島兵次郎文書	72点	歴史

#### ② 貴重書・特別コレクションの指定

新たに貴重書14点、特別コレクション1点を指定した。

#### 資料3 新指定貴重書・特別コレクション

項 目	請求記号・文庫番号	書 名
貴 重 書	99-144	歌仙 (刊、7冊)
	99-145	碧巖録 (刊、9冊)
	99-146	花鳥風月 (写、2帖、奈良絵本)
	99-147	聚分韻略 (刊・文明13、2冊)
	99-148	金剛般若波羅蜜經 (刊・永享8、1帖)
	99-149	後三年合戦絵 (写、3軸)
	99-150	役者絵尽し (刊、3冊)
	99-151	扇の草紙屏風 (写、1隻)
	99-152	時代不同歌合絵巻 (写、1軸)
	99-153	詩歌仙 (写、1軸)
	99-154	紅葉惣録 (写、3冊)
	99-155	大悲山寺縁起 (写、1軸)
	99-156	勧修寺八幡宮縁起 (写、1軸、絵巻)
	99-157	附音増広古註蒙求 (写、1冊)
特別コレクション	95	萩谷朴旧蔵「平安朝歌合大成」関係資料

## ③ 資料の整理・目録作成

以下の資料の整理・目録作成を行った。

## a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 約 7,500 件
- ・書誌データ登録 約 3,100 件
- ・データベース移植時の未コントロール分処理 約 2,000 件

## 資料 4 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者	サービス区分	リール番号	件数
26	酒田市立光丘文庫	A'	180-502	34
48	名古屋市蓬左文庫	B'	583-711	134
55	陽明文庫	E	835-845	278
99	土佐山内家宝物資料館（山内文庫）	A	639-647	154
222	三原市立図書館	A	204-246	216
258	臼杵市立臼杵図書館	A	427-451	31
260	東京都立中央図書館（東京誌料）	B'	131-191	202
272	弘前市立図書館	A	304-329	475
278	大須文庫	B'	119-140	97
281	盛岡市中央公民館	A'	943-991	198
296	尊経閣文庫	E	紙焼写真	64
326	名古屋市博物館	B	110-130	107
332	ノートルダム清心女子大学附属図書館	A	322-339	45
343	神奈川県立金沢文庫*	E	紙焼写真	3
347	糸魚川市歴史民俗資料館	C	24-37	212
348	南方熊楠邸保存顕彰会	B'	98-115	95
355	諏訪市図書館	A	100-132	101
362	黒川村立公民館	A	131-139	35
363	鳥取県立図書館	A	146-177	127
370	奈良女子大学附属図書館	B	42-65	76
376	周南市立鹿野図書館（岩崎文庫）	B'	19-49	238
セ1	善通寺	A	157-191	44
ハ3	初瀬川文庫	A	158-166	30
ミ2	光藤益子	A	61-98	119
合計				3,115

\* 新規整理文庫

## b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の整理 1,426 点
- ・明治期資料の整理 506 点
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 344 点
- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 320 点

## c. 活字本・影印本の整理・目録作成 2,307 冊

## d. 歴史関係図書・逐次刊行物の遡及入力を継続して行った。

## 【資料の保存】

### (1) 概要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的に行っている。

### (2) 活動記録

#### ① 文書・記録類の保存・修復処置

- a. 史料目録刊行済みのものについて、閲覧用ラベル貼付、中性紙封筒・帙・箱等への収納、状態調査記録作成、虫損・剥離箇所への部分修復処置等を行った。……5,426点  
(「信濃国松代真田家文書」「信濃国松代真田家中依田家文書」「出雲国仁多郡稲田村安部家文書」)
- b. その他、必要に応じて別置分の組込、中性紙封筒・箱等への入替、部分修復処置等を行った。……685点(「守屋栄夫文書」「山口重次文書」「山城国京都久世家文書」ほか)
- c. 正保期の日本全図の一種である『日本総図』の補修を専門家に依頼した。(2ヶ年計画の1年目)
- d. 資料の保存・利用の観点から、『陸奥国津軽郡絵図』ほかの大型絵図10点13枚についてデジタル化を行った。

#### ② 古典籍原本の保存・修復処置

- a. 新規に受け入れた原本類について、窒素および無酸素による害虫処理を行った。  
虫損が著しく閲覧・撮影が困難な高乗勲文庫の『和漢草』(写1冊)ほか10点を補修専門家に依頼した。

#### ③ マイクロフィルムの保存

- a. 劣化フィルムの複製  
年度当初に永久保存マイクロフィルムの素材調査を行い、今後複製が必要なフィルムの洗い出しをし、その結果、劣化が進みつつあるTAC(トリアセテートセルロース)ベースフィルムは5,847リールと判明した。予算を別途確保し、残りのすべての複製を実施した。これで劣化フィルム問題は解消した。
- b. 永久保存マイクロフィルム保管  
昨年度完成した保管庫は、温度18℃湿度25%の安定した環境で、平成21年度までの永久保存マイクロフィルム43,649リールを収納している。

## 【利用者サービス】

### (1) 概要

#### ① 所蔵和古書のインターネットでの画像公開

- a. デジタル撮影は、貴重書16点、特別コレクション(初雁文庫・懷風弄月文庫・長谷章久旧蔵書・高乗勲文庫)209点、一般和古書(大型資料)19点を実施し、順次公開している。
- b. 館蔵和古書画像データベース(試行版)で公開していたマイクロフィルムからデジタル化した画像について、「マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録」からアクセスできるよう進めていた移行作業が完了した。
- c. マイクロフィルムからのデジタル化は、特別コレクション(日本漢詩文集コレクション・久松潜一旧蔵書・早歌資料コレクション・橋本進吉旧蔵書)及び一般和古書計326点実施した。

### (2) 活動記録

#### ① 資料の閲覧及び複写

開館日数は245日、新規登録者は1,515人、来館利用者数は6,921人で、新規登録者(初めて当館

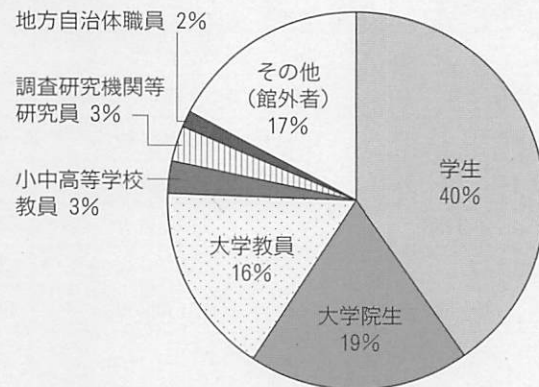
を利用する人) が年々減少している。

閉架資料の利用状況をみると、ポジフィルム以外は増加している。逐次刊行物と活字本・影印本の増加は、歴史関係資料の OPAC 公開（遡及入力）の効果が大きい。

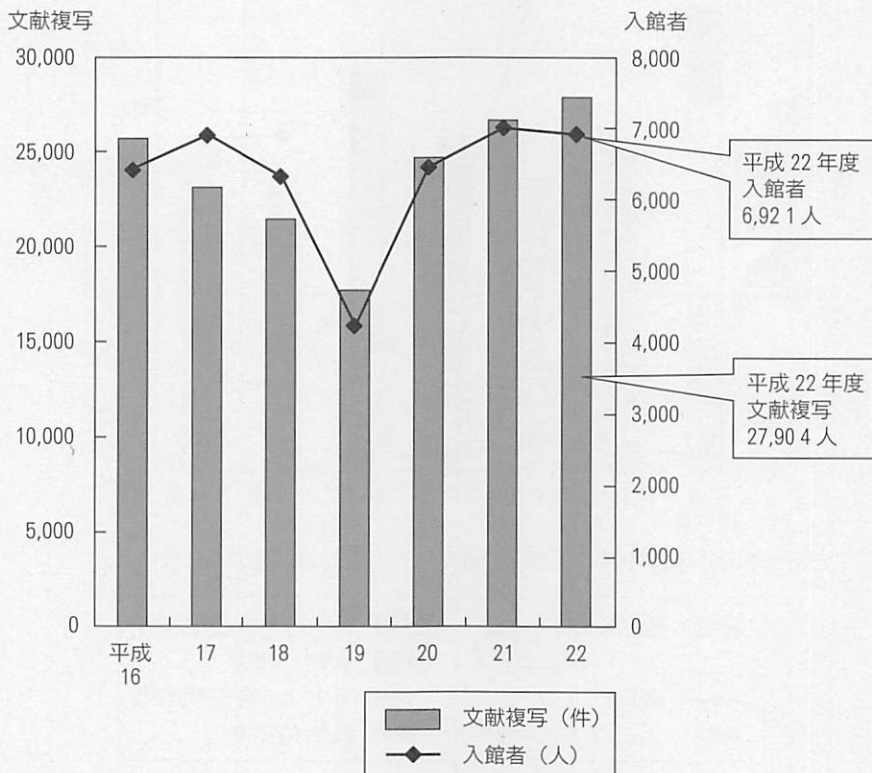
また、郵送や FAX での個人からの複写申込がマイクロフィルムからの複写を含む代行コピーの 27 %で、来館せずに複写を申し込む傾向が続いている。

#### 資料 5 来館利用者の構成

利用者内訳	H 22 年度
学 生	2,805
大学院生	1,294
大学教員	1,136
小中高等学校教員	203
調査研究機関等研究員	195
地方自治体職員	109
その他（館外者）	1,179
総 計	6,921



#### 参考資料 来館利用数比較



平成 18 年度：アスベスト工事により 3 ヶ月間休館  
平成 19 年度：移転準備のため 6 ヶ月間休館  
平成 20 年度：7 月から土曜開館・隔週水曜休館  
平成 22 年度：地震・計画停電のため 5 日間休館、2 日間正午以降休館



## ② 相互協力サービス

今年度は、電子複写は昨年並み、マイクロ資料の複写受付件数・枚数は昨年度より増加したが一昨年度ほどには達しなかった。年度末に申込が集中し、対応しきれなかったという問題が残る。他館との比較では、ILL 文献複写受付件数は、受付をした参加組織 1,157 館中 36 位（昨年度 52 位）であり、資料の共同利用に貢献している。

資料 6 相互協力件数

項 目		受 付		依 頼
貸借	図 書	39 件、39 点、43 冊		8 件 8 点 9 冊
	紙焼写真本	3 件、3 点、3 冊		
複写	電子複写	2,764 件	20,484 枚	9 件
	RP による電子複写	852 件	79,873 枚	34 件
	フィルム複製	4 件	1,331 コマ	3 件
	紙焼作製	一 件	一 枚	3 件
	合 計	3,620 件	101,688 枚	49 件

参考資料 相互協力文献複写受付比較



	平成 16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
電子複写件数	3,646	4,252	4,093	2,031	3,148	2,785	2,764
RP による電子複写件数	628	619	631	770	658	658	852
フィルム複製件数	843	12	4	9	2	3	4
紙焼作製件数	151	154	220	142	115	—	—
電子複写枚数	26,782	30,484	29,059	14,915	23,227	19,568	20,484
RP による電子複写枚数	31,744	49,809	55,792	83,562	99,227	72,175	79,873
フィルム複製コマ数	63,987	2,065	593	429	418	179	1,331
紙焼作製枚数	32,392	24,354	11,782	11,817	9,743	—	—

紙焼作製は平成 20 年度の 1 月で終了（印画紙製造中止のため）

### ③ レファレンスサービス

日本文学・歴史資料分野のレファレンスサービスを継続しておこなった。

## 資料 7 レファレンスサービス件数

質問の種類		件数
文書による質問		16
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	90
	問い合わせメール	243
電話による質問	所蔵調査	223
	利用についての問い合わせ	599
	内容調査	73
閲覧カウンターでの質問		764
合 計		2,008

### ④ 掲載許可申請受付（今年度決裁分）

- ・ 翻刻掲載 16 件
- ・ 写真掲載 190 件

写真掲載のうち数種の要件に該当した 76 件は無償、また、翻刻掲載はすべて無償である。所蔵資料のデジタル公開の進捗に伴い、写真掲載の依頼が増えている。

### ⑤ 資料の展示貸付（展示開始が今年度のもの） 6 件

## 資料 8 展示貸付一覧

貸出機関	展示内容	展示期間	貸出資料	点数
江戸東京博物館	徳川御三卿	平成22年10月～11月	徒然草評論（田安德川家資料（寄託）のうち）ほか	24
川越市立博物館	知恵伊豆 信綱 松平信綱と川越藩政	平成22年10月～11月	寛永諸家系図伝（大河内家寄託資料のうち）ほか	6
品川区立品川歴史館	中原街道	平成22年10月～11月	戸越村御屋敷路見覚付絵図（陸奥国弘前津軽家文書）	1
国立歴史民俗博物館	武士とはなにか	平成22年10月～12月	座右書口説事條（陸奥国江戸蜷川家文書のうち）ほか	21
憲政記念館	政党政治への道 議会開幕から本格的政党内閣誕生へ	平成22年11月～12月	國會議員品定（明治本）	1
板橋区立郷土資料館	しむら	平成23年 2 月～3 月	寛文度領知御朱印目録留	1

## 【古典籍総合目録事業】

### (1) 概 要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。その成果として『古典籍総合目録』（当館編・岩波書店刊）を刊行し、他方、データベースを公開している。平成 18 年末に従来の「国書基本データベース（著作編）」「古典籍総合目録データベース」を統合し、マイクロ資料目録データベースを含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。

下記のとおりデータ作成等を実施した。

- ① データソースの収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）
- ② 書誌データの作成（登録） 約 7,200 件

### 資料 9 古典籍総合目録データの作成 所蔵者・目録一覧

所蔵者	コレクション	目 録	データ数	
広島大学附属図書館	今中文庫	今中文庫目録	215	
龍谷大学図書館	写字台文庫ほか	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 哲学・芸能之部	66	入力中
龍谷大学図書館	写字台文庫ほか	龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録 総記・言語・文学之部	404	
金沢大学附属図書館	金戸文庫	金戸文庫仮目録	219	
東海大学中央図書館	桃園文庫	桃園文庫目録	622	入力中
東京大学文学部国文学研究室		東京大学国文学研究室所蔵古典籍目録	541	
大阪府立大学学術情報センター図書館		大阪女子大学蔵 洋学資料総目録	138	
野田市立図書館		野田市立図書館所蔵和古書目録	496	
関西大学図書館	生田文庫	関西大学図書館所蔵生田文庫・頼原文庫目録	92	
富山市立図書館	山田孝雄文庫	山田孝雄文庫目録	1,414	入力中
竹田市立図書館		吉良家和漢蔵書目録	27	入力中
千葉大学附属図書館		千葉大学附属図書館亥鼻分館古医書コレクション目録	1,496	
長崎県立長崎図書館		長崎県立長崎図書館古典籍目録	269	入力中
奈良女子大学附属図書館		奈良女子大学附属図書館大宮武麿氏旧蔵書目録	137	
長崎大学附属図書館		長崎大学附属図書館医学分館所蔵貴重和漢古書目録	116	
北上市立中央図書館		（北上市立中央図書館提供データ）	969	
合 計			7,221	

- ③ 基礎データ（典拠データ）追加・改訂
- ④ 公開データベースの更新

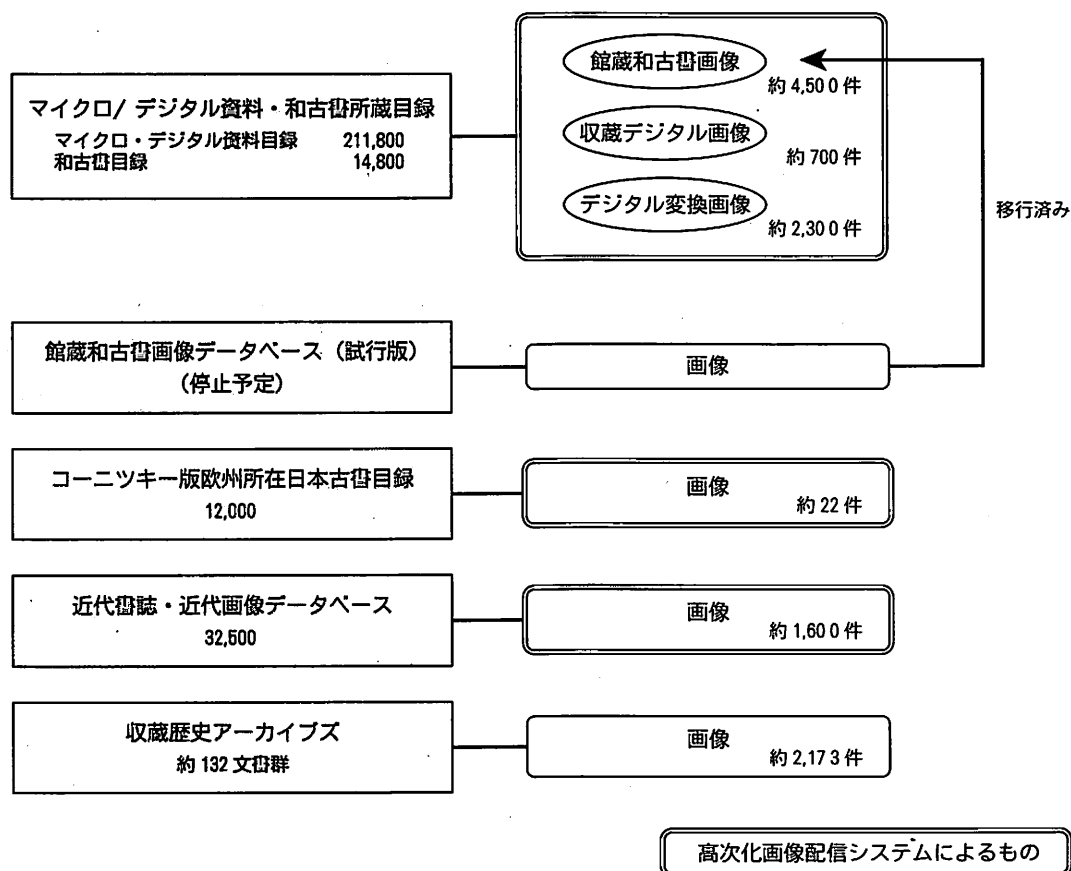
## 【電子化推進事業】

### (1) システム維持・更新

第 8 期情報システムへの移行に伴い、以下の改修・更新を行った

- ① 「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」の項目表示・ヘルプ表示の変更、画像の有無での検索機能追加
- ② 画像配信サーバ変更に伴う、高次化画像配信システムの画面変更、画像形式の変換作業、再リンク作業
- ③ 館蔵和古書画像データベース（試行版）の館蔵和古書画像の「マイクロ／デジタル資料・和古書所蔵目録」への統合。
- ④ 業務データベースシステム（マイクロ目録・館蔵和古書目録・古典籍総合目録で共用）のデータベースシステム変更にもなう、移植作業・各種作業用の機能の開発。

#### 資料 10 公開画像（主なもの）



#### （２） デジタル画像公開

公開に必要な以下の作業を行った

- ① 所蔵和古書のリンク作業・画像形式変換作業
- ② 収集マイクロデジタル化の支援
- ③ 収蔵歴史アーカイブズデータベースほか画像公開の支援
- ④ 画像台帳データベースの作成



## 4. 学術企画連携部

### i) 国際交流室

#### 【第34回国際日本文学研究集会】

日 程：平成22年11月27日（土）・28日（日）

場 所：国文学研究資料館

主 催：国文学研究資料館

日本学術振興会助成事業

テーマ 「書物としての可能性—日本文学がカタチになるまで—」

\* 研究発表13本、ショートセッション研究発表6本、ポスターセッション研究発表4本、及び公開講演1本が行われた。

\* 国際日本文学研究集会委員会の決定に基づき、主として若手研究者を対象とする、発表時間を15分とするショートセッション、及び資料掲示による説明コーナの発表（ポスターセッション）を設け、それぞれ6名と4名の発表が行われた。

\* 最近10年のうち最も多数の163名（外国人53名、日本人110名）の参加者があった。

#### 【海外における国際シンポジウム等の開催】

##### ① 古典籍資料による日韓学術交流集会

日 程：平成22年7月26日（月）

場 所：韓国国立中央図書館

主 催：国文学研究資料館・韓国国立中央図書館・高麗大学校日本研究センター

テーマ 「古典籍資料による日韓学術交流」

\* 参加者17名（外国人12名、日本人5名）

\* 調査カードの使用方法や書誌の取り方の具体例などについて報告し合い、質疑応答を行った。

\* 11月15日16日にも今後の交流継続のための打合せ会を実施した。

##### ② 「日中書籍史比較研究」国際研究集会

日 程：平成22年12月23日（木）・24日（金）

場 所：北京・中国国家図書館

主 催：国文学研究資料館・北京大学国際漢学家研修センター・中国国家図書館古籍館・中国国家古典籍保護センター

テーマ 「古典籍の形態・図像と本文—日中書物史の比較研究—」

\* 日本と中国の書物史の専門家を集め、古典籍の形態、図像と本文に関する問題を切り口として、日中書籍史の共通点と相違点に留意した比較研究を行い、それによって、東アジアの書物の歴史に対する理解を深めていくことを目的として開催された。

\* 参加者50名（外国人43名、日本人7名）

##### ③ 第6回インド国際日本文学研究集会

日 程：平成23年2月20日（日）

場 所：国際交流基金ニューデリー日本文化センター

主 催：デリー大学・国際交流基金

後 援：国文学研究資料館

テーマ 「インドにおける日本文学研究」

\* インドにおける研究者と日本文学に関する情報交換及び研究報告を行い、日本文学に対する理解を深め、研究成果を共有することを目的として開催された。

\* 参加者 40 名（外国人 30 名、日本人 10 名）

（参考）

上記のほか科学研究費補助金などによって、国文学研究資料館教員が主導している国際学術集会には、コレージュ・ド・フランスと共同して開催された「書物の形態と本文」をテーマとする国際研究集会（3月8日、於パリ大学）および「集と断片」をテーマとする国際研究集会（4月、於早稲田大学）、ライデン大学図書館におけるワークショップ（人間文化研究機構国際連携研究プロジェクトとの連携）、「東アジア近世契約文書の諸様相」をテーマとする日中韓の国際集会（人間文化研究機構連携研究、1月8日、於韓国中央研究院）などがあり、また教員個々の海外の国際学会への参加（講演・研究発表をふくむ）も多い。

#### 【外国人研究員の招聘】

- ① アルド・トリーニ（ヴェネツィア大学准教授）

招聘期間：4月16日～7月15日

参加研究プロジェクト「王朝文学の流布と継承」

- ② 朱秋而（台湾大学副教授）

招聘期間：6月14日～9月21日

参加研究プロジェクト「近世的表現様式と知の越境—文学・芸能・絵画による総合研究」

（参考）

上記の他、外来研究員として高麗大学校日本研究センター HK 研究教授金孝順・金青均・金姫延、及びソウル大学 HK 研究教授李美淑を受け入れた。

#### 【学術交流協定による国際交流】

- ① 高麗大学校日本研究センターとの学術交流協定にもとづきシンポジウム「古典籍資料による日韓学術交流」を開催。また科学研究費補助金等により、学術交流協定を締結しているコレージュ・ド・フランス、ライデン大学と共同したシンポジウム等を開催した。
- ② 学術交流協定を締結している高麗大学校日本研究センターからは恒常的に研究者を外来研究員として受け入れることになった。
- ③ ローマ大学との学術交流協定を更新した。

## ii) 展示企画室

### 【展 示】

- ① 通常展示「和書のさまざま-書誌学入門-」

概 要：《本》のさまざまな形態を体系的に紹介しながら、日本の古典籍がどのように読み伝えられて来たのかを当館所蔵資料を使い展示した。

日 程：平成 22 年 4 月 15 日（木）～6 月 18 日（金） 44 日間

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

鑑賞者：548 名

- ② 人間文化研究機構連携展示「チベット ポン教の神がみ」

概 要：国立民族学博物館（大阪府吹田市）において平成 21 年 4 月 23 日～7 月 21 日に開催

した企画展「チベットボン教の神がみ」を当館に場所を移し展示した。

ボン（Bon）教は中国のチベット自治区全域、四川省、甘肅省、青海省、雲南省からヒマラヤ南麓にまで広く分布している宗教で、仏教がチベットにもたらされ、政権と結びつく前まではその地域の主流をしめていた。本展示では、ボン教が築きあげてきた宗教的宇宙の構造の一部を図像資料によって紹介するとともに、ボン教の歴史や現代における分布、儀礼などを紹介した。

なお、本展示に併せて、会期中に財団法人千里文化財団が主催した講演会が開催された。

日 程：平成 22 年 7 月 2 日（金）～9 月 10 日（金） 61 日間

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館、国立民族学博物館

鑑賞者：3,107 名

講演会：第 94 回「国立民族学博物館友の会」東京講演会

演 題：「チベット ボン教とは何か」

日 時：平成 22 年 7 月 19 日（月・祝）14：00～15：15

講 師：長野泰彦（国立民族学博物館教授）

会 場：当館大会議室

参加費：一般 500 円。国立民族学博物館友の会員、国文学研究資料館賛助会員は無料。

主 催：財団法人千里文化財団

協 力：国文学研究資料館、国立民族学博物館

参加者：96 名

※講演終了後に展示室内にてギャラリートークを実施。

③ 特別展示「鉄心斎文庫 短冊文華展」

概 要：鉄心斎文庫（東京都品川区）が所蔵する短冊コレクション約 6 千枚とその関連資料の中から、選んだ約 150 点を展示した。

展示品は、吉田兼好から江戸川乱歩まで様々な時代の著名な人物の短冊、『兎玉集』『古筆短冊手鑑』という天皇や公家を中心とした短冊手鑑、『慶安手鑑』や『眺望集』といった版本を展示した。なかには、短冊をモチーフとした蒔絵の硯箱などもあり、日本人が短冊をどのように享受してきたかを概観できるような展示となった。

なお、本展示に併せて、会期中に講演会を開催した。

日 程：平成 22 年 10 月 4 日（月）～11 月 12 日（金） 28 日間

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

協 力：近世和歌研究会

後 援：鉄心斎文庫、和歌文学会、俳文学会、東京新聞、立川市、立川商工会議所、立川観光協会、立川市商店街連合会

鑑賞者：1,402 名

毎週金曜日、14：00 から展示室内にてギャラリートークを開催。

講演会：「鉄心斎文庫の短冊」



日 時：平成 22 年 10 月 15 日（金）14：00～16：30  
挨 拶：芦澤美佐子（鉄心斎文庫 伊勢物語文華館）  
講 演：神作研一（金城学院大学教授）「短冊のちから」  
鈴木 淳（当館教授）「短冊 書き継がれるカタチ」  
会 場：当館大会議室  
参加費：無料、先着 150 名  
参加者：92 名

④ 通常展示「新収資料展 物語そして歴史—平安から中世へ—」

概 要：当館で新たに購入した資料を中心として物語文学、歴史関連にテーマを絞り展示を行った。その中でも昨年購入した『奈良絵本うつほ物語絵巻』は稀書であり、今年度学術交流協定を締結した九州大学附属図書館と連携し、九州大学附属図書館が所蔵する『うつほ物語絵巻』（九大本）と当館が所蔵する国文研本の 2 つを同時に展示した。

なお、本展示に併せて、会期中に講演会を開催した。

日 程：平成 23 年 1 月 24 日（月）～3 月 18 日（金） 39 日間  
場 所：当館展示室  
主 催：国文学研究資料館  
協 力：九州大学附属図書館  
鑑賞者：947 名  
毎週金曜日、14：00 から展示室内にてギャラリートークを開催。

講演会：「王朝文学と奈良絵本—うつほ物語を手がかりに」

日 時：平成 23 年 1 月 24 日（月）14：00～16：30  
会 場：当館大会議室  
講 演：赤澤真理（日本学術振興会特別研究員）  
田村 隆（九州産業大学講師）  
参加費：無料、先着 150 名  
参加者：82 名

iii) 広報出版室

【講演会】

① 連続講演

日本文芸の普及を図り、古典について広く深く理解してもらうため、第一線で活躍している研究者による連続講演を、平成 12 年度から年 1 回（全 5 回）開催している。平成 22 年度は、「江戸文化再考」と題し、九州大学名誉教授 中野三敏氏による連続講演を行った。

名 称：平成 22 年度連続講演  
テーマ：江戸文化再考  
講 師：中野 三敏（九州大学名誉教授）  
日 程：平成 22 年 9 月 10 日、9 月 17 日、9 月 24 日、10 月 22 日、10 月 29 日  
14 時 30 分～16 時 00 分

第 1 回 9 月 10 日（金） 大勢五転 近代人の江戸観について 112 名

- 第2回 9月17日(金) 雅と俗と 江戸文化理解の根本理念 116名  
 第3回 9月24日(金) 江戸モデル封建制 その大なる誤解 110名  
 第4回 10月22日(金) 近世的自我 思想史再考 96名  
 第5回 10月29日(金) 和本リテラシーの回復 その必要性 104名

場 所：当館大会議室

参加者数：533名(延べ)

## ② サテライト講座

当館が品川区から立川市へ移転したことを踏まえ、移転前から来館していた利用者など、都心の利用者に向けた講座を東京堂出版神保町第1ビルディングで開催した。

本年は「和歌文学への招待」をテーマに寺島恒世教授、海野圭介准教授が講演を行い、各講演終了後には参加者から多数の質問が出るなど盛況であった。

名 称：平成22年度サテライト講座

テーマ：和歌文学への招待

講 演：「新古今時代の和歌」 寺島 恒世(当館研究部教授)

「和歌の秘密を伝えるー古今伝授の世界ー」海野 圭介(当館研究部准教授)

日 程：平成22年11月6日(土) 13:30~16:30

場 所：東京堂出版神保町第1ビルディング

参加者数：56名

## 【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史資料を取扱う専門の人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催する。また、カリキュラム等の改善を図るため、講義を担当する教員を中心にカリキュラム研究会を実施する。

長期コースは、前期7月20日(火)から4週間、後期8月30日(月)から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、42名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は15名、大学院生は27名であった。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した29名に修了証書を授与した。短期コースは、11月8日(月)~13日(土)に名古屋大学(名古屋市)の施設を借りて開催され、30名が受講した。うち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は28名、大学院生は2名であった。

### ① 長期コース

日 程：平成22年7月20日(火)~8月13日(金)、8月30日(月)~9月24日(金)

場 所：当館オリエンテーション室ほか

受講者：42名

### ② 短期コース

日 程：平成22年11月8日(月)~13日(土)

場 所：名古屋大学博物館ほか

受講者：30名

## 【日本古典籍講習会】

各所蔵機関の図書館員等を対象に、書誌学の専門知識の獲得や整理方法の技術向上によって、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図ることを目的とし、平成15年

度から開始した。第1回の平成15年度は、海外の図書館員等を対象として5日間開催、16年度は国立国会図書館の協力を得て開催、17年度からは、国立国会図書館との共催で開催している。第2回(16年度)以降は、国内の図書館員等を対象に3日間開催、今年度は大学図書館等23名、公共図書館等7名、計30名が受講した。

内容は、昨年と同様、日本古典籍の基礎知識、和古書目録の作成、データベース化の方法、近世の出版と流通、くずし字の読み方、蔵書印の見方・読み方などの講義、当館及び国立国会図書館の和古書目録規則の説明、古典籍資料の保存・管理法、貴重書紹介、書庫の見学などであった。

日 程：平成23年1月26日(水)～28日(金)

場 所：当館大会議室

受講者：30名

### 【夏休み子ども見学デー】

毎年8月に開催している「夏休み子ども見学デー」を8月5日(木)に開催した。「夏休み子ども見学デー」は、法人化された平成16年度から実施しているもので、今回が7回目となる。今年を対象を小学校4年生～6年生に絞り、立川市やその周辺地域の小学校にチラシを配布するなどして参加者の募集を行った。

当日の参加者は小学生16名の他、立川第10小学校の校長先生及び保護者の方8名が参加し、立川第4中学校の先生と読書部の生徒4名が特別に見学した。

最初に今西祐一郎館長の挨拶があった後、閲覧室、教員研究室、展示室の館内見学が行われ、その後江戸助教による「百人一首の話」があり、引き続きカルタ取り大会が行われた。カルタ取り大会では、今年も3名の講師(青柳隆志先生、内池三郎先生、兼築信行先生)をお招きし、狩衣姿で宮中歌会始めと同じ読み方で百人一首の和歌の披露が行われた。

日 程：平成22年8月5日(木) 14時00分～16時30分

場 所：当館大会議室

内 容：「百人一首の話」

江戸英雄(当館研究部助教)

カルタ取り大会「歌会始めて百人一首」 青柳隆志(東京成徳大学人文学部教授)

兼築信行(早稲田大学文学学術院教授)

内池三郎(日本国語教育学会理事)

参加者：29名(内訳：子ども16名、保護者等8名、特別見学5名)

### 【出版関係】

#### ① 平成22年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果を学界及び社会一般に還元する一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成22年度は、文学研究篇第37号(257ページ)、アーカイブズ研究篇第7号(225ページ)を刊行した。

#### ② 研究成果刊行促進制度

本制度は、当館の研究をより広く学界及び社会一般に還元するため、研究成果の出版を希望する当館の共同研究に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成22年度は、申請がなく、本制度の適用はなかった。

#### ③ 国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に4回発行している。

平成22年度は、19号～22号の4冊を発行し、関係機関に配布するとともに、催し物の際に来館者に配布した。

④ 概要の作成

平成22年度の当館概要を作成した。

【広報関係】

① 当館 Web ページのリニューアル

当館の Web ページについて、全面的にリニューアル作業を実施した。

② 多摩モノレール「高松駅」での広報活動

昨年8月より、多摩モノレール「高松駅」改札内の広報用展示スペースを借用し、当館の広報スペースとしてPR展示を実施している。なお、この広報については、平成23年度も継続して実施することとしている。

③ 立川地区の広報誌「えくてびあん」への連載

立川地区で無料配布されている月刊広報誌「えくてびあん」において、平成22年9月号より、当館の教員に焦点を当て、教員の研究と当館の事業内容を紹介する記事を連載しており、平成23年8月号までの全12回が予定されている。

④ カレンダーの作成

当館のカレンダーを新たに作成し、関係各所へ配布した。今後も毎年作成していく予定である。